



器具を大切にすることは、  
自分たちの現場活動が円滑に進むだけでなく、  
自分や仲間の活動の安全にもつながっています。

消防職 倉敷消防署

竹原 麻莉 (たけはら まり)

平成28年度入庁

## なぜ、倉敷市職員に？

私は、高校生の頃から人の命を助ける仕事がしたいと消防を目指し、中でも救急救命士になりたいと思っています。また、倉敷市の消防職員を志したのは、知人の職員からの勧めがあったからです。職場の雰囲気や職員の話聞いて、とてもアットホームな良い印象を持ちました。他の本部の方からも話を聞きましたが倉敷市の印象が良く、倉敷市で働きたいと思い、倉敷市の消防職員を志願しました。

## 現在担当している仕事内容は？



私は、倉敷消防署に勤務しています。2つの係が1日交代で勤務する消防係で、救急業務や火災業務の他に、訓練指導や救命講習など市民の方を対象に講習なども行っています。

仕事をしていて、印象に残っている出来事は、初めて消防隊として消防車に乗って出動した林野火災です。普段、火災現場では無線機を使って離れた場所にいる仲間に連絡を取ります。しかし、その日は車に積んでいた無線機の1つの調子が悪く、車に乗せていませんでした。そのため、先輩から出る指示を伝えるために300mほど離れた坂の上にある現場と車両を何回も走って往復しました。普段から休みの日には運動はしていましたが、そのときは、とても辛かったことを覚えています。1つの器具がないだけで現場活動の負担が大幅に増えるということ、身をもって学び、器具を大切に扱う「器具愛護」という言葉の意味が分かりました。器具を大切にすることは、

自分たちの現場活動が円滑に進むだけでなく、自分や仲間の活動の安全にもつながっています。私たちが使用する器具は自分の命に直結するものもあるので、大切に、そして長く使えるようにしたいと思いました。

## 倉敷市職員になってよかったことは？

私は、平成29年中に倉敷市の広報誌やテレビに出演する機会がありました。そのおかげで、市民の方に声をかけていただけることが増えました。直接、「頑張って」や「すごいね」などとお褒めの言葉を頂き、とても嬉しかったです。また、消防署見学に来た小学生の女の子が「消防士になりたい」と言っているのを聞いたときも嬉しく思います。今の所、女性消防職員は少ないですが、自分が広報誌やテレビに出たり、現場活動している姿を市民の方に見ていただくことで、多くの方に女性も活躍できる仕事であると知っていただきたいです。



## 志望者に向けてメッセージ

消防職員は、火災や救急などの現場で活動しているイメージが強いと思いますが、火災を防ぐための予防業務や、119番通報を受け付ける通信指令室など仕事内容は多岐に渡ります。現場に出るような仕事だけではなく、災害の発生を未然に防ぐための立入検査や、119番通報から私たちの活動に必要な情報を聞き、出動隊に知らせる仕事など、多くの役割があって私たちの現場活動が支えられています。一人ひとりの仕事で市民を守ることにつながっており、やりがいや達成感があります。ぜひ、倉敷市消防局と一緒に仕事をしましょう。